アサヒメッキ(鳥取市、木下淳之社 長)はステンレスの表面を防錆し、約20 種類の色が出せる発色処理技術「ORO RU処理」事業を始める。このほど新工 場も本格稼働する。高い耐食性と鮮やか な発色技術に世界が注目するほか、建築 隈研吾氏の目にもとまった。木下社 長が同氏のファンであることから、今 回、モノづくり企業と建築家による異色 の対談が実現。同社の製品・技術を通

じ、建築家が求める素材は何か、両者の

連携の可能性は、などを語ってもらった。

対談

8月4日・火曜日 2020年 (令和2年)

研吾氏

対談するアサヒメッキ木下社長衛と隈氏

アサヒメッキ社長 木下 淳之氏

時代に必要とされるも

なぜ、開発を

発色度合いを均質化

目指されたのですか。

ビに強く

つ

そうです。まさに今の

木や石とマッチングしさが感じられ、自然の



隈 研吾氏 建築家

くま・けんご 1979年(昭54)東大大 学院建築学科修了。コロンビア大客員研 究員を経て、90年、隈研吾建築都市設計事 務所設立、09年、東大教授、20年東大特 別教授•名誉教授、神奈川県出身。65歳

のますますの社業御隆

確信しています。 貴社 道を開き続けるものと も、そしてこれからも

盛と、新工場から生ま

により、新たな飛躍を

新発想も

ORORU処理」とし 機会は少ないですね。 から、今はそういった いデザインも生まれま 良いものがなければ良 施主の趣

とお考えですか。 んなところで使いたい 先ほどお話しし 先生はわが社

にとおり、この製品は

ピリッツ」でメッキの 技術を極めてこられま

くものづくりの現場に

禍が日常生活だけでな

新型コロナウイルス

も大きな影響を与えて

ますが、

貴社の確か

「アサヒメッキス

社員

されますよう、

お祈り

し上げます。

の発展にも大きく寄与

レス鋼発色処理の一大

本県産業

これにより、

ステン

昭昭

術を開発し、新サービせる独自の表面処理技

ステンレス鋼を発色さ

道開き続けると確信

る情熱は、これまで な技術と常に挑み続け した。そして新たに、

製品や技術があれば、 技術に触れる機会はあ ら、このような製品やような建築家が日頃か 使いたいと考えます。 建築家なら良い ころで、 営者と建築家との交流ぜひ、モノづくりの経 ただきたいですね。 を今後、ぜひ作って 手とのコラボレーショ 多く生まれます。 良さが分かれば、 の機会を設けたいです のこの製品・技術をど ンも面白いでしょう。 い発想やデザインが数 もその製品や技術の 建築家やデザイナ そういう機会 ージを一変させまし 私のステンレスのイメ た。私の建築の素材の 一つとしていろんなと の皆さまが一丸とな をスタートされ、 よりお祝い申し上げま 点とし、58年に旭鍍金 23) 創業の旭輪業を原 新工場本格稼働を心 1948年 X ツ

RU(オロル)」を作り

語の販売会社「ORO

にちなみオーロラの仏

高いのです。

それで色

るのですか。

の先生のお話の通りこ

まだ半ばです。先ほど

オトーありがとうごった。 セージ 今後の経営のあり方や できそうです。 製品展開などの りまし を結ばれました。 たびの新工場稼働の実 **技術でステンレスのイ** るよう頑張ります 日本から変え、 ジも変えていけ

れ、こういった機会に 理」技術に興味を持た でいつか仕事を一緒に したいと考えていまし 「ORORU処 この技術は、ステンレ 見せる技術です。従来 用により20色もの色を を防ぐ被膜の厚さを精 スの表面を覆って腐食 に使える自信作です。 ス製品には「冷たい」 は当然、食用にも安全 かない製品など、建築 た。何十年間もステン 沢の有無や、指紋が付 が、色でこんなに温か イメージがありまし レスを使ってきました 今までステンレ 表面の光 人々は20世紀

れています。 製品は最先端の工業製 に求めるものは、 品なのに、伝統工芸品 の親しみやすさ。この かさや優しさが求めら らげたいと、建築に温 す。それを少しでも和 害に不安を感じていま ナ禍も含め、多くの災 末から今回の新型コロ 私が素材 温 顧客の声 きっかけは、

3年から取り組みまし くできないかと201 質で冷たい」との声で 病院や介護施設の方々 した。温かい色に変 「ステンレスは無機 よりサビや傷に強 事が多く下請け体質がた。元々メッキ業界 したが、16年に耐食性均一化などに苦労しま えていました。色調の 意識も変えたいとも考 あり、これを機にその

はそれだけで低 界を目指してい 来の「メッキ」ではなく 「表面処理」の分野で世 建築にお . ます。 いても

品質より 日

作》、C. 20種類の ワン技術ですの 今春、量産化の 雑形状などへ対応し、 つきました。オ 大型化や複 だ、従 めども の発色 任はバイヤーや建築家機にあります。この責品・技術がなくなる危 それなのに、 他国に仕事が流れ、 術の高さを感じます。 持っていい。世界に 高いと思っています。 業の製品・技術が1番 こ十数年間、 は理解しておらず、 けばいくほど日本の技 経営者はもっと自信を を担当している中小企 4の最もすばらしい製 **但段を重視したため、** 仕事の末端の部分 国内の人

アサヒメッキ社長 木下 淳之氏

きのした・あつし 1993年(平5)湘 南工科大情報工学卒、同年衆議院議員秘 書。11年アサヒメッキ入社、12年専務、 18年オロル社長。鳥取県出身、52歳。

「ORORU処理」技術の仕組みと効果

覆って腐食を防止していは、ステンレスの表面を を精密に制御すること 実用化は進まなかった。 術。以前からの技術だがついたように見せる技 の反射度合いを変え、 る酸化被膜を化学的に厚 のが難しい上、材料ロッ く成長させることで、 にバラつきが出るため、 +) 単位で精密制御する など量によって色合い 同社は酸化被膜の厚さ ステンレス発色処理 酸化被膜の厚さを1 以前からの技術だ (ナノは10億分の 色光

酸化被膜の厚さ制御、発色を均質化

った研究などを通じ、 ク用浄化槽への応用とい る水素貯蔵用の圧力容器 品など幅広く、現在、同 用途は建材や精密機器の 連の持続可能な開発目標 格の規格化に尽力した。 品質や試験法でJIS規 え、光沢の有る無し、半だけでも約20種類をそろ することに成功。 船舶のバラストタン 燃料電池に使われ 自動車部品、日用 光り方も3通り 化学発色被膜の 標準色

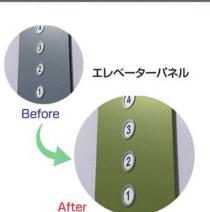
ーワンの発色を、違いを求めるすべて ORORU inc.

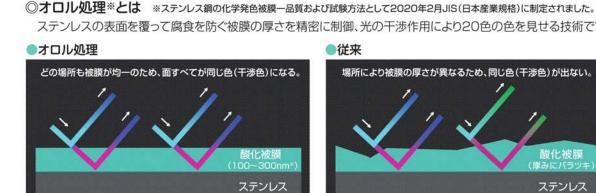
にもあると思います

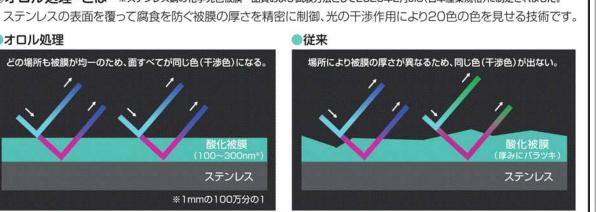












用途は無限大。ステンレスに付加価値を!

- 建築関連 (手すり、フェンス、壁、サイン、キッチン、バス、工具など)
- 芸術関連 (金属工芸品、額装品など)
- 医療関連 (病院施設、医療機器・器具、トレイなど)
- 自動車・鉄道関連(ドアノブ、シフトカバー、マフラー、ホイールカバーなど)
- 食品関連(食器、厨房機器、冷蔵庫、換気ダクト、調理器具など)
- 電気機器関連(制御盤カバー、電気照明器具・部品など)
- 娯楽・レジャー関連(コイン、釣り針、自転車、キャンプ用品など)
- 雑貨関連(アクセサリー、時計、バッグ、賞状楯等、鍵、万年筆など)





※1mmの100万分の1

オロル株式会社

本社 〒689-1121 鳥取県鳥取市南栄町1番地 TEL: 0857-51-0608 FAX: 0857-51-8816 E-mail: info@ororu-inc.co.jp https://ororu-inc.co.jp



〒689-1121鳥取県鳥取市南栄町1番地

TEL: 0857-53-4561 FAX: 0857-37-4115 E-mail: kkasahi@asahimekki.jp https://asahimekki.jp